



## わくわくする1年

校長 伊藤 栄司

### 宇佐に行くや 佳き日を選ぶ 初暦（夏目漱石）

み（巳）年を迎えました。新年おめでとうございます。年頭にあたり、子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとって、素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

お正月らしい俳句を選んでみました。本校に所縁のある夏目漱石の俳句です。新しいカレンダー（初暦）の表紙をめくり、これから始まる一年へのどきどきとした期待が伝わってきます。さらに漱石は旅行に行く日を選んでいきます。新年を迎えた喜びやわくわくした様子が目に見えるようです。

今年もお茶の水小学校では1年間を見通した様々な行事や学習の計画を立てています。新しい一年間の計画を立てる時、子どもたちの笑顔や頑張る顔を思い浮かべると、わくわくした気持ちが大きくなります。

### 問いをもつ

少し前の話になりますが、2016年にノーベル医学・生理学賞を受賞した大隅良典教授は研究者を目指す若者に対して、「素朴な疑問をもつことが大切です。」と話していました。世界で初めてオートファジー（自食作用：細胞内における自己の構成成分の分解機能）のメカニズムの解明に成功し、医療への応用を飛躍的に発展させた大隅教授も最初は素朴な疑問が研究の始まりでした。ノーベル賞を受賞するような偉大な研究だけでなく全ての学びは、なぜだろうと疑問をもつことから始まります。

### 経験から生まれる疑問

日々の生活の中で何となく過ごしていると疑問は思いつきません。自分の今までの経験と比べ、いつもとは違う角度で物事を見たり考えたりすることで「あれっ?」「なんで?」「不思議だな?」と疑問が湧いてきます。疑問が湧き、何とか解決したくなると自ら学ぶ力が動き始めます。

とりあえず近くの人に聞く、書籍やインターネットで調べる等、思いつくあらゆる方法を使って解決するまで調べ、考える事で納得いく答えを導き出します。勉強は、先生や大人に教えてもらう受け身の学習をイメージしがちですが、自分で疑問を見つけ調べ解決することが大切になりたい学びです。

### 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領でも自ら進んで学ぶ力（主体性）をととても大切にしています。一般的に授業では導入・展開・まとめの3つの段階に分けて指導していますが、最初の5～10分の導入では、課題に対して「なぜだろう」「不思議だな」と子どもたちが思うような工夫を施します。いったん疑問に目覚めると、調べてみたい、考えてみたい、話し合ってみたいと主体的な学びが始まるからです。展開では自らの感じ取った課題を解決し、まとめでは学習を振り返りながらわかったことや身に付いたことなどを整理します。それぞれの教科には特性があるので、全てが今挙げたような流れになるとは限りませんが、全教科共に基本的な考え方は同じです。

### わくわくする学び

VUCA※と言われる予測困難な社会を生き抜くために必要な力として導き出されたのが、「課題をもち自分で解決する力」です。疑問をもつと早く答えにたどり着きたくなるので、わくわくしながら学びを進めることができます。日々の生活や授業、学校行事などを通して様々な面でわくわくした気持ちもてる学校を目指します。

※VUCA（ブーカ）Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4つの単語の頭文字をとった言葉。